

Title	医薬品メーカーにおける事業領域の選定
Sub Title	
Author	稲垣治(Inagaki, Osamu) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1984
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1984年度経営学 第322号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001984-0322

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 稲垣 治 主査 小林 規 威
(藤沢薬品工業株式会社) 副査 古川 公 成
所属ゼミナール 和田 充 夫 研 和田 充 夫

医薬品メーカーにおける 事業領域の選定

本研究は、我国医薬品メーカーが、一方で低収益・低成長化という脅威にさらされておられ、他方でバイオテクノロジーという大きな市場機会に臨んでいる環境の下で、企業戦略すなわちその中心課題である事業領域を広く規定する必要性を説き、その規定をどのように行なえば良いかについて研究したものである。事業領域の定義は極めて漠然とした定義が多いが、これを広く規定することは、新規事業への参入を意味し、その際具体的にどのような分野を参入の対象として考えれば良いかの「具体的な事業の範囲」を究明する。本研究では、会社成長の原動力を情動的経営資源の蓄積に求め、ダイナミック・シナジーの概念をその分析のフレームワークとしている。

具体的には、バイオテクノロジーを中心として、医薬品メーカーが現在および将来において、どのような分野の製品開発が可能かという「技術の関連性」を1つの切り口として分析し、他方では将来に向けての情動的経営資源の蓄積の為に現在の参入戦略を考え、バイオ関連業界の市場構造を「参入の魅力度」を中心にして分析を行なった。分析の手法としては、主にクラスター分析を使用した。さらにこれら双方の分析を統合し、事業領域選定のための段階的な業界マップを作成し、医薬品メーカーについての事業領域を提示した。

その結果、ダイナミックな事業定義についての方向性が提言され、医薬品メーカーの多角化による成長の可能性が認められたのである。